

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18320135
 研究課題名（和文）途上国周辺地域の人口移動におけるグローバル化の影響
 —東北・北タイとラオスを例に—
 研究課題名（英文）Migration in the peripheral region of Thailand and Laos under globalization
 研究代表者
 中川 聡史 (NAKAGAWA SATOSHI)
 神戸大学・経済学研究科・准教授
 研究者番号：10314460

研究成果の概要：

タイの農村地域からの国際結婚移動、ラオス農村地域からタイへの国際人口移動が近年増加していることを確認した。タイ農村地域からの国際結婚移動は労働移動の側面が強いことをドイツ在住のタイ人女性、送り出し地域の残された家族へのアンケート調査、インタビュー調査から明らかにした。こうした国際人口移動がタイ農村地域でなお多いのは、国内の工場の立地分散が十分に進まず、依然としてタイ国内の経済格差が縮小していないことと関連している。一方、近年、電気が来て外部に関する情報が増加したラオス農村地域では、タイへの国際人口移動が若年者を中心に急増しており、彼らは十分な学校教育よりもタイへの出稼ぎを重視していることは、長期的には問題があると考えられる。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	6,100,000	1,830,000	7,930,000
2007年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2008年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
年度			
年度			
総計	14,100,000	4,230,000	18,330,000

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：人口移動、周辺地域、グローバル化、タイ、ラオス

1. 研究開始当初の背景

ヒト・モノ・カネの移動の自由化が近年急速に進展している。そのなかで、新たな地域格差も生じていると考えられる。人口移動研

究においては、これまでは先進国を中心にグローバル化のなかでのヒトの動きが研究されてきた。途上国から先進国への人口移動についても、受け入れ側の先進国側の視点から

の研究が主流である。しかしながら、グローバル化と人口移動の関連を考えるためには途上国の状況もよくみる必要がある。途上国から先進国への人口移動にも様々な形態があり、また途上国間にも経済格差があるなかで、より貧しい途上国から相対的に豊かな途上国への人口移動も増加している。本研究では、グローバル化の影響を、人口移動を通して、途上国からみることを大きな目的としている。

2. 研究の目的

具体的な研究目的は以下のように整理される。

(1) タイの農村地域では近年、国際結婚が増加している。タイの周辺地域から先進国への女性の国際結婚移動について、送り出し側と受け入れ側の先進国の両方で実態調査をおこない、国際結婚移動がとくに送り出し地域にとってどのような意味があるのかを明らかにする。

(2) 農村地域を後背地とするタイの地方都市では、近年、大型ショッピングセンターが多く建設されており、農村居住者の購買力が上昇していることが示唆される。この原因として、国際労働移動や国際結婚移動の増加が考えられる。タイの地方都市の購買力上昇とその背景を明らかにすることが本研究の第2の目的である。

(3) 1980年代後半から経済成長が続いたタイにおいても、農村地域からの国際人口移動の送り出しは、労働から結婚へと形態を変えながら依然として続いている。近年のタイ国内の地域格差、国内人口移動の状況を検討することが本研究の第3の目的である。

(4) ラオスからタイへの国際労働移動も近年急速に増加している。タイの隣国、ラオスは一人あたりGDPがタイの6分の1程度であり、タイでの労働によって得られる収入はラオスの人々に大きな意味を持つ。ラオス農村地域での実態調査を通じて、ラオスからタイへの国際人口移動の実態を明らかにするとともに、その背景、移動による村や地域経済の変化を見るのが第4の目的となる。その際、タイ政府の外国人政策についても調査する。

3. 研究の方法

目的(1)について、タイからの国際結婚移動の目的地として重要な国の一つはドイツである。ドイツにおいて、ドイツ人と結婚したタイ人にアンケート調査、インタビュー調査をおこない、国際結婚をした理由、タイの家族との関係の調査をおこなう。一方、タイにおいても、娘を結婚によって外国に送り出した世帯へアンケート調査をおこなった。

目的(2)に関して、タイの地方都市であるコンケンとウドンタニの大型ショッピングセンターでの購買行動を観察し、買い物客の属性を調査する。また、農村地域からの買い物客にインタビュー調査をおこなう。

目的(3)に関しては、タイの人口統計の個票データなどを利用し、国内人口移動の状況をみるとともに、経済統計で地域間経済格差の動向をみる。また、チェンマイとその近郊の工場団地での聞き取りを通じ、近年のタイ人労働者の状況を明らかにする。

目的(4)については、ラオス中部の農村で、世帯を対象に、人口動態、人口移動、労働、農業などに関するアンケート調査をおこない、ラオス農村部からタイへの国際人口移動増加の要因を検討する。

4. 研究成果

(1) タイ農村部における国際結婚の増加の背景には、①受け入れ地域の経済状況の変化によって、国際労働移動に出ることが困難になってきた。②携帯電話やインターネットの発達により、国際結婚の情報を収集したり、結婚後にタイの家族と連絡を取ることが容易になった、ことが挙げられる。ドイツにおける調査、タイの送り出し世帯の調査の結果、国際結婚移動は労働移動の側面が強く、移動者も、送り出した家族も、仕送りをおこなうことを当然のことと考えている。

(2) タイの地方都市の大型ショッピングセンターの買い物客を調べると、当該地方都市住民だけでなく、周辺の農村地域からの買い物客が多く、そうした農村地域からの買い物客はショッピングセンターから商品を仕入れ、村で小売りをおこなっていることが多い。これには、国際人口移動でこれまで以上の現金収入を得るようになった農村住民の存在が関連していると考えられる。

(3) タイ国内の地域間経済格差を見ると、タイの東北部は依然として他地域より貧しく、格差は縮まっていないことがわかった。タイ国内においては、かつてのようなバンコク都一極集中ではなく、中部タイ諸県への人口移動が著しく増加しており、中部タイへの雇用の分散は確認できる。ただし、東北タイでは依然として雇用機会は不十分であり、このことが海外への人口移動と関連していると考えられる。

(4) ラオス農村の調査から、調査村では2000年以降にタイへの出稼ぎが急増していることが明らかになった。2000年に電気が通じた調査村では、それ以降、テレビやトラクター、オートバイの購入、タイへの出稼ぎが急増した。電気が通じることでグローバル化の影響が急激に見られるようになった。子どもたちの多くは学校教育に関心を示さず、タイへの出稼ぎに大きな興味を持っており、小学校修了を待たずにタイへ向かう子どもも少なくない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計18件)

① 田中佳子・佐藤哲夫、タイ国メーホンソン県におけるカヤン観光集落の展開、地域学研究 21、9-31 頁、2008 年、査読無

② 川端基夫、グローバルリタイラーと途上国市場のコンテキスト—タイ東北部における零細小売業との共生関係—、龍谷大学経営学論集 47-3、66-76 頁、2007 年、査読無

③ 渡辺真知子、タイにおける 1990 年代の国内人口移動とその背景、明海大学経済学部論集 19-1、41-62 頁、2007 年、査読無

④ 高橋眞一、ラオス農村の出生力低下と土地利用・人口移動—ルアンパバン県焼畑村の実態調査を踏まえて—、神戸大学経済学研究科 Discussion Paper 614、1-16 頁、2006 年、査読無

(他 14 件)

[学会発表] (計 6 件)

① 中川聡史、タイからドイツへの国際結婚移動—移動者および送り出し世帯へのアンケート調査より—、人文地理学会大会、2008 年 11 月 9 日、筑波大学

② S. Nakagawa, International migration from/to Thailand, The 17th Biennial General Conference of the AASSREC, 2007 年 9 月 29 日、名古屋大学

③ S. Nakagawa, International marriage migration from rural Thailand to Germany, The 4th International Conference on Population Geographies, 2007 年 7 月 12 日、ホンコン中文大学

④ 中川聡史、東北タイの人口移動、日本人口学会大会、2007 年 6 月 9 日、島根大学

(他 2 件)

[図書] (計 1 件)

① 中川聡史 (分担執筆)、明石書店、ラオスからタイへの近年の国際人口移動、『アジアの経済発展と環境問題』、2009 年、280 頁 (担当分 94-102 頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中川 聡史 (NKAGAWA SATOSHI)
神戸大学・経済学研究科・准教授
研究者番号：10314460

(2) 研究分担者

高橋 眞一 (TAKAHASHI SHINICHI)
神戸大学・名誉教授
研究者番号：80030683

渡辺 真知子(WATANABE MACHIKO)
明海大学・経済学部・教授
研究者番号：80094936

川端 基夫(KAWABATA MOTOO)
龍谷大学・経営学部・教授
研究者番号：60234118

佐藤 哲夫(SATO TETSUO)
駒澤大学・文学部・教授
研究者番号：10211749

(3)連携研究者